

# — きらきら輝く春の色 命の息吹が萌え出づる頃 —

旧暦では、この月を「弥生」といいます。「弥生」は、もともと「草木弥生月」を略した言葉で、「ますます」や「いよいよ」を意味する「弥」と、「生い茂る」という意味を持つ「生」が合体したものです。多くの植物が生長する頃なので、このように名づけられました。

## 【お彼岸】3月21日前後（旧暦春分前後の七日間）——

春分の日を中日として前後の3日、合わせて七日間を「彼岸」といい、最初の日を「彼岸の入り」、最終日を「彼岸の明け」と呼びます。「暑さ寒さも彼岸まで」のたとえどおり、厳しい寒さも緩み、一年のなかでも過ごしやすい頃が始まります。

「彼岸」はサンスクリット語の「波羅蜜多」の訳で、生死を超越できない人間界（此岸）に対し、それを解脱して悟りを開いた涅槃の境地のことをいいます。お彼岸に墓参りするのは、太陽が真東から上って真西に沈むので、落日を通して西方の極楽浄土と交わることができると考えられているからです。

## 3月の四字熟語 【一陽来復】

冬が終わり春が来ること。新年が来ること。また、悪いことが続いた後で、ようやくよい方向に向かうこと。

### 3月の本「砂漠」 伊坂幸太郎／著

仙台市の大学に進学した春、なにごとにもさめた青年の北村は四人の学生と知り合った。

少し軽薄な鳥井、不思議な力が使える南、とびきり美人の東堂、極端に熱くまっすぐな西嶋。

麻雀に勤（いそ）しみ合コンに励み、犯罪者だって追いかける。

一瞬で過ぎる日常は、光と痛みと、小さな奇跡で出来ていた——。

明日の自分が愛おしくなる、一生モノの物語。



出典：実業之日本社 場所：ティーンズコーナー（W 14）

参考文献：「絵でつづるやさしい暮らし歳時記」日本文芸社  
：「新明解四字熟語辞典 第二版」三省堂

# 3月

2024年 teen's 季節のカレンダー